公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信

2014年
2月号

日本野鳥の会80周年

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆安西英明の探鳥会講座
「識別や解説の基礎」・・・・・・・・・・1
◆環境教育関東ミーティング 2013 参加報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
◆探鳥会保険集計結果
（2013年12月分）・・・・・・・・・・ 5
◆ミニニュース
・「栃木から東京の Young 探鳥会を学びに」7
◆普及室からのお知らせ
・「次号より、新企画スタート！」・・・・・7
◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・・7
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・8

◆安西英明の探鳥会講座

「識別や解説の基礎」

■基礎や総論が欠けていないか？

高野図鑑（『フィールドガイド日本の野鳥』）がよい点の一つは、種ごとの解説の前に科ごとの解説があることだ。「その仲間は世界で何種いるのか？」もそこに記されている。現在、高野図鑑を新たな分類に準拠させた新版とすべく取り組んでいるが、年度内の出版が難しくなってきた。参考文献として予定していた世界の野鳥のチェックリストが今なお発行されないのだ（非スズメ目については昨年発行され、それを元に科ごとの種数の書き直しを終えたが、スズメ目が未刊）。分類の変更による世界的な混乱が続いていることを言い訳にしたくはないので、現在、文献の変更も視野に入れて検討している。

今回は、どうして科の解説があるとよいのか？を考えながら、探鳥会を考えてみたい。野鳥をわかろうとする場合に限らず、「基礎から応用」「総論から各論」あるいは「簡単なことから難しいこと」という順が原則だと思うが、野鳥任せで展開する探鳥会では逆を強いられることがままある。その方が興味や関心という点で効果的なこともあろうが、「図鑑を見ても鳥がわからない」「探鳥会に長年参加していても野鳥が見分けられるようにならない」という声を多々耳にするほどに、「基礎や総論が欠けていないか？　順番への配慮が欠けていないか？と心配になる。

■対象や識別の順番

双眼鏡でも基礎を知らない人が多いので、探鳥会では初めから近くにいる茂みの中の小鳥を見せようとするのは適さない。双眼鏡で見ていただこうとするなら、開けたところで、視野に入れてピントを合わせやすい対象（大きい、動きが少ない、遠い）から慣れていただくことが先だろう。難易度が高いことを知らないままに「難しい」と感じた初心者が、興味や自信を無くしてしまうことがあるように思う。

野外識別の基礎となる身近な鳥から案内しようと考えていても、先に上空をタカが舞うことだってある。私は猛禽類の生態的地位から自然のしくみや自然保護の解説に展開できる機会だと思うが、もしそれがハイタカなのか？ツミなのか？という種の識別を話題にするなら、種まで絞り込む順番を意識した方がよい。まず、ははばたき方からハヤブサ科かタカ科であること、次に翼の先が尖っていないことからタカ科であること、そしてタカ科の中では比較的短い翼と長めの尾などからハイタカ属であることなどが種の識別より先だろう（種までわからなくても、ハイタカ属までわかれば、その形態

的特徴が森で小鳥を狩ることに適している話しもできる）。

■難易度も解説の基礎

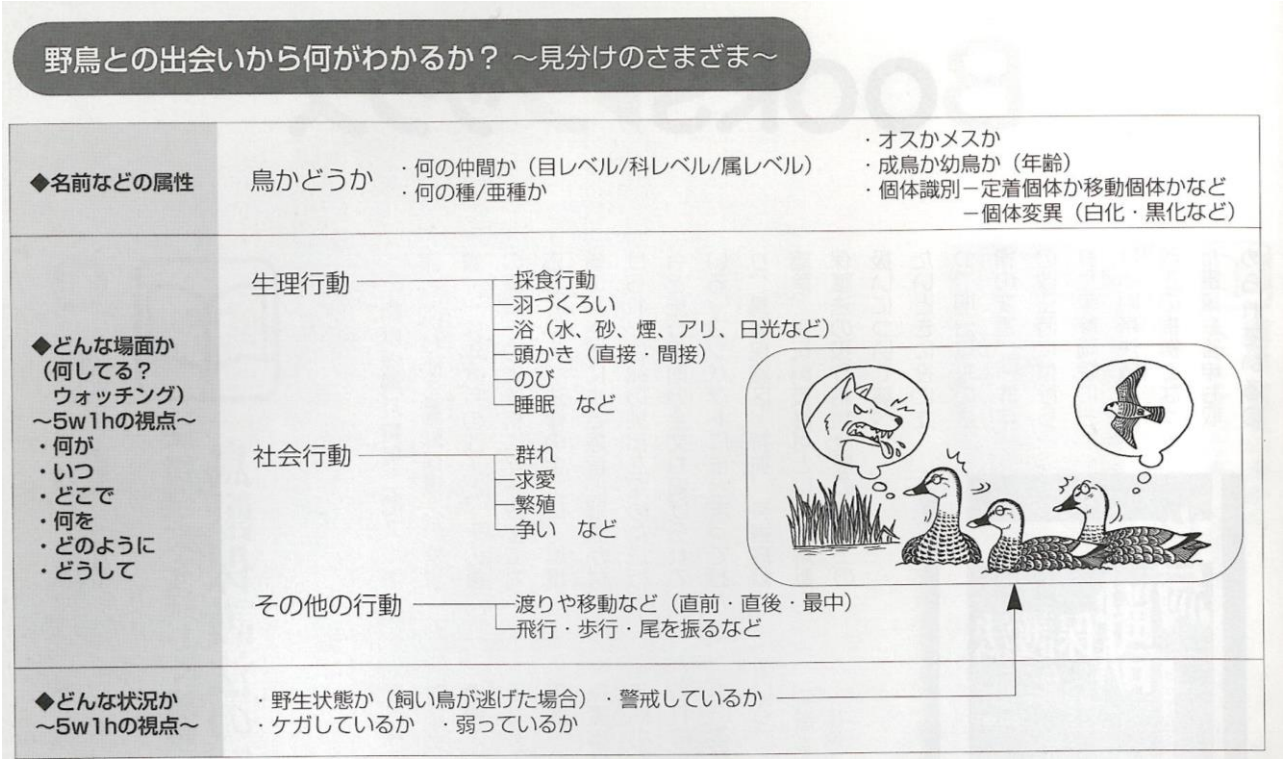
野鳥には野外識別がたやすい種もいるが、難しい種もいる。簡単に解説できる習性もあるが、わかっていないことも多いので、難しさやわかっていないことの解説もあった方がよい。直ぐに簡単にわからないことをわかってもらおうとするより、わかり方を伝えた方がよいこともあろう。

私は識別の基礎や総論として「慣れて比べて絞り込めるようになると、昆虫や植物より種数が限られている野鳥は種まで絞り込めるものが多い」という話をした上で、種まで絞るのが難しいものは、仲間からわかるようにすることをお勧めしている。

例えば『４大嫌々グループ』として、種の識別は後回しでよいとしているのがタカ、シギ、カモメ、カモ類の雌だ。図鑑に並んだ絵を見て種をわかろうとすると「どこが違うのか？」と嫌になるくらい似ている種が多いグループだと思う。これらは「科の識別点」としてシギとチドリの違い、カモとカイツブリの違いなどから解説する方が親切だと思う。難しい種の識別に興味を持つ方もいるが、「カモメやカモは本人たちも間違えてハイブリットが少なくない」など、種を特定できない個体もいるとことは基礎的な話として欠かさない方がよい。

多くの方に興味や関心を持っていただくには、種の識別以外に幅広い観点があった方がよい。観点のさまざまは野鳥誌で連載していた『ひなこのお散歩鳥講座』で表にしたことがある。

（普及室/安西英明）



▲『野鳥』2001 年９／10 月号　P19「ひなこのお散歩鳥講座」
イラスト：加藤明子

◆環境教育関東ミーティング 2013 参加報告

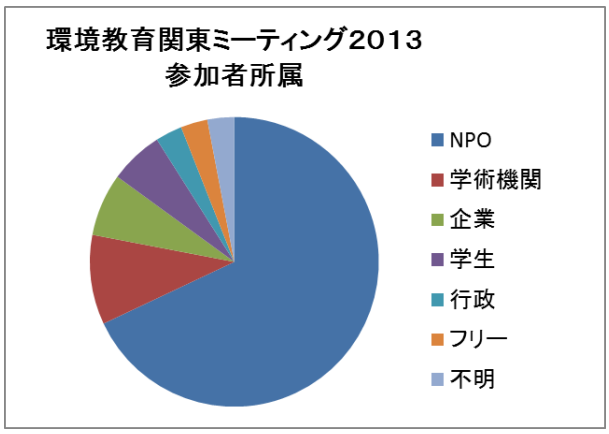
2013 年 12 月、自然体験や環境教育に感心のあるプロとアマチュアが集まり、一泊二日で意見交換や交流をし、人脈を広げるミーティングに参加しました。

環境ミーティングは、1987 年に山梨県清里にて開かれた全国ミーティングに端を発し、その後、全国各地で地域ミーティングが開催されています。「関東」ミーティングは 2005 年から開始され、今回が 10 回目の開催でした。

ラムサール条約に登録された渡良瀬遊水地を有する栃木県栃木市で、「集い 語ろう 人と自然のネットワーク　みんなで創ろう 地域の”WA”　～渡良瀬遊水地から未来へつなぐ環境教育～」を全体のテーマとして開催されました。

▲参加者集合写真

参加者数は約 100 名。栃木県、群馬県、埼玉県、東京都を中心に、NPO 50 団体、学術機関１０団体、企業７社、学生、行政など、自然に関心のある多種多様な参加者が集まりました。日本野鳥の会栃木から５名、日本野鳥の会群馬から 3 名、財団事務局から 4 名の参加もありました。



ミーティングは、「渡良瀬遊水地から未来へつなぐ環境教育」をテーマにした鼎談から始まり、各日９講のプログラムから選択して参加する分科会、参加者が自分たちの活動を紹介するポスターセッション、交流会、クロージングという内容でした。

■概要

【開催日】2013 年 12 月７日（土）～8 日（日）
【会場】栃木グランドホテル
【参加者】約 100 名（実行委員 22 名を含む）
【テーマ】集い 語ろう 人と自然のネットワーク　みんなで創ろう 地域の”WA”～渡良瀬遊水地から未来へつなぐ環境教育～
【スケジュール】

12 月７日

12:30～	受付
13:30～	オープニング
13:35～	全体会（※）
15:20～	オリエンテーション
15:40～	分科会 A
17:40～	チェックイン・入浴
19:00～	ポスターセッション
19:30～	夕食＆交流会①
21:00～22:30	交流会②

12 月８日

6:00～9:00	早朝プログラム
7:30～9:00	朝食
7:30～9:30	チェックアウト
9:30～	分科会 B
11:30～	昼食
12:30～	クロージング
14:00～	閉会

（※）全体会（鼎談）
テーマ
「渡良瀬遊水地から未来へつなぐ環境教育」
出演者
呉地正行氏
（NPO 法人蕪栗ぬまっこくらぶ 理事長）
高松健比古氏
（日本野鳥の会栃木 代表）
青木章彦氏
（わたらせ未来基金代表 代表世話人）

■全体会（鼎談）と分科会Ａの様子

鼎談では、蕪栗沼と渡良瀬遊水地それぞれの場所で、ラムサール条約登録に向けて取り組んできた方たちのお話を聞くことが出来ました。

どちらの場所においても、ラムサール条約登録まで辿りつくために大切だったことは、人と人との信頼関係や繋がりであり、様々な分野の方たちとの連携であったことが確認されました。例えば、生きもののデータをとってみても、野鳥のデータだけで遊水地の自然の豊かさを示したり、ラムサール条約の登録の国際基準を満たしたりすることは出来ません。日本野鳥の会栃木では、越冬期のワシタカカウントなどを行い、野鳥のデータを蓄積する一方、植物や昆虫、魚類などを専門とする様々な団体とも連携することで大きな力を生んできました。

分科会Ａは、遠藤孝一氏（NPO 法人オオタカ保護基金 代表、日本野鳥の会栃木 副代表他）が担当された『「ゆるキャラ」と「道の駅」が里山を守る？！～市貝町とオオタカ保護基金の挑戦～』に参加しました。

オオタカ保護基金では、市貝町と協力し、「市貝町サシバの里づくり基本構想」という町の全体構想の策定を行っています。分科会では、サシバのつがい密度が「１００平方キロメートルあたり１３８つがい」という市貝町の里山の素晴らしさや、「ゆるキャラ」と「道の駅」が里山を守ることにどうつながっているのか、日本野鳥の会栃木とも連携して進められている里山保全活動についてのお話を聞くことが出来ました。

▲分科会Ａの様子

■まとめ

今回初めて環境教育ミーティングに参加しましたが、普段の仕事では接点の無かった方たちと出会うことが出来、刺激になりました。

ミーティングを通して、日本野鳥の会栃木の皆さんが会以外の様々な市民団体や行政などと連携しながら、渡良瀬遊水地の保全や市貝町の里山保全を進めてきたことを知りました。様々な分野の方たちと交流を深め、連携していくことは、自然保護を進める上での大切な基礎であることを学び、今回のような人脈を広げるためのミーティングの重要性を感じました。

（普及室／堀本理華）

◆探鳥会保険集計結果（2013 年 12月分）

12 月は 67 支部からご報告をいただき、計 264 回の探鳥会が開催され、のべ 6,275 人が参加されました。

表1．12 月の探鳥会保険集計結果（2013 年 1 月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
小清水	−	−	−	−	−
オホーツク支部	2	30	10	2	42
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	0	0	0	0	0
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	0	0	0	0	0
道北支部	−	−	−	−	−
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	3	73	20	6	99
小樽支部	2	5	6	2	13
苫小牧支部	−	−	−	−	−
室蘭支部	1	18	10	3	31
函館支部	−	−	−	−	−
道南桧山	1	12	4	3	19
あおもり	−	−	−	−	−
弘前支部	2	16	1	2	19
秋田県支部	3	14	6	3	23
山形県支部	3	15	9	3	27
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	1	19	5	4	28
北上支部	0	0	0	0	0
宮城県支部	3	44	11	5	60
ふくしま	2	48	0	5	53
郡山支部	1	7	0	3	10
二本松	2	7	0	2	9
白河	0	0	0	0	0
会津支部	−	−	−	−	−
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	1	20	0	1	21
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	13	139	63	17	219
栃木	−	−	−	−	−
群馬	9	138	62	27	227
吾妻	0	0	0	0	0
埼玉	11	352	62	71	485
千葉県	10	141	30	45	216
東京	14	609	17	67	693
奥多摩支部	12	180	20	42	242
神奈川支部	16	288	57	58	403
新潟県	2	31	32	6	69
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	2	44	16	3	63
石川	3	38	1	7	46
福井県	1	2	4	7	13
長野支部	2	23	3	4	30
軽井沢支部	1	11	12	1	24
諏訪	1	5	15	2	22
木曽支部	−	−	−	−	−
伊那谷支部	1	5	2	2	9
甲府支部	1	30	0	2	32
富士山麓支部	1	4	1	2	7
東富士	−	−	−	−	−
沼津支部	2	24	6	3	33
南富士支部	2	32	10	3	45
南伊豆	1	15	1	2	18
静岡支部	4	30	5	5	40
遠江	2	38	8	6	52
愛知県支部	15	154	159	37	350
岐阜	−	−	−	−	−
三重	4	24	22	7	53
奈良支部	2	63	8	4	75
和歌山県支部	1	1	7	3	11
滋賀	4	42	28	8	78
京都支部	8	88	37	19	144
大阪支部	23	361	74	100	535
ひょうご	10	125	82	29	236
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	38	7	3	48
島根県支部	2	14	2	2	18
岡山県支部	6	139	72	17	228
広島県支部	2	32	17	2	51
山口県支部	5	29	3	5	37
香川県支部	2	66	9	3	78
徳島県支部	5	53	3	5	61
高知支部	2	22	38	2	62
愛媛	4	50	32	7	89
北九州	4	58	7	5	70
福岡支部	7	146	42	15	203
筑豊	3	67	2	3	72
筑後支部	−	−	−	−	−
佐賀県支部	3	47	8	3	58
長崎県支部	−	−	−	−	−
熊本県支部	5	101	22	6	129
大分県支部	1	17	9	2	28
宮崎県支部	2	17	12	2	31
鹿児島	3	54	24	10	88
やんばる支部	−	−	−	−	−
石垣島支部	−	−	−	−	−
西表支部	−	−	−	−	−
全国	264	4,315	1,235	725	6,275

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆ミニニュース

「栃木から東京の Young 探鳥会を学びに」

先日２月１１日（火・祝）、葛西臨海公園にて日本野鳥の会東京が主催する Young 探鳥会がありました。Young 探鳥会はおよそ４０代くらいのまでの方を対象とした探鳥会です。

約１００名の参加があった当日、日本野鳥の会栃木から、副代表の手塚さんと、２０代、３０代の若い会員の方たちが参加していました。

手塚さんは、昨年１１月の連携団体総会にて、Young 探鳥会を担当する東京の石亀さんの報告を聞き、栃木でも Young 探鳥会を実施しようと若者を連れて勉強に来たそうです。探鳥会終了後の交流会の場で、担当リーダーの石亀さんと落合さんからお話を聞いていました。手塚さんは、

「探鳥会終了後の交流会に、寒い中にも関わらず参加者のほとんどが残り、歓談している様子に驚きました。若い人たちが集まれる場を提供することの必要性を再確認しました。」

と話していました。

栃木では、来る５月に、第一回目の Young 探鳥会を開催する予定とのことです！

▲屋外での交流会の様子

（普及室／堀本理華）

◆普及室からのお知らせ

■次号より、新企画スタート！■

探鳥会のリーダーをする中で、次のようなことを感じることはありませんか。

「探鳥会に参加するメンバーが固定化しており、このままでは長く続けていけるか心配」

「いつもの仲間との交流も楽しいけれど、新しい人にも参加して欲しい」

「会の魅力を伝えるために、鳥を見て楽しむだけでなく、保全活動もアピールできないだろうか」

全国に 90 ある日本野鳥の会の支部等連携団体の中には、参加者が固定し、マンネリ化しがちだという探鳥会の状況を打破するために、魅力的な探鳥会運営に取り組む方たちがいます。

本企画では、女性を対象にした探鳥会や新規入会を促進する探鳥会、保全活動を行う探鳥会など、これまで探鳥会に参加していなかったような一般参加者も意識した外向きの探鳥会をご紹介します。連載は３月号から開始します。どうぞお楽しみに。

（普及室／堀本理華）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の購読について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも購読できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

２月の始めには暖かい日もありましたが、ここ２週間は東京も慣れない雪にみまわれています。
次号からは、非会員の参加も意識した外向きの探鳥会の事例を掲載していきます。支部での取り組みがありましたら、ぜひ tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

（普及室／堀本理華）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信　第 11 号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　　2014 年２月 18 日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org